

## 雄勝地区



7月30日(水)、雄勝公民館を会場に、「おやこ料理教室」が開催されました。

### 「食」は大切です!

栄養士が野菜に「食」についての話をしてから調理実習に入り、ポークトマトカシ、

ちぎりレタと海苔のサラダなどを作りました。参加した方は、調理実習を通じてよりよいコミュニケーションが取れたことや「食」に対する興味や関心が持てたことを大変喜んでいました。



## 河北地区

7月18日(金)、河北総合センター(ビッグバン)文化交流ホールを会場に、仙台市青葉区の国見台病院岩館敏晴院長を講師に迎え、「うつこの上手なつきあい方」をテーマに心の健康づくり講演会が開催されました。

岩館院長は、これまでの経験などを交えながら、「最近は大変な心因性のうつ病が増加し、その内容も複雑化している。『うつ』は、自助努力や家族の協力だけでは、解決できない問題もあり、地域社会が協力して支え合っている」と話されました。

### 「うつ」の上手なつきあい方!

ことがますます必要な時代になっていく」と話されました。



## 桃生地区

川の自然環境の保護と観光資源の有効活用を目的に、旧北上川の脇谷船着場から植立山公園船着場までの約7キロをイカダで下る「北上川イカダ下り」が、7月27日(日)・29日(火)、8月10日(日)の3日間にわたり行われました。これは、水と緑の環境フォーラム・ものが毎年開催しているもので、今年も3日間大人、子ども合わせて約300人が参加しました。参加された皆さんは、自然との触れ合いを通して、自然の素晴らしさや楽しさを学んだようです。

### 北上川イカダ下り



## 河南地区

8月5日(火)、遊楽館で、河南子育て支援ネットワークスクエア主催の「親子わいわいクッキング」が開催され、23組の親子とボランティアスタッフが含めた約80人が参加しました。

記念撮影をした後、河南地区食生活改善推進委員の方から、牛乳パックを利用した押しすしのレシピを聞きまし

た。子ども達も三角巾やエプロンを着用してお手伝いしました。親子で作ったおすしや、かぼちゃスープ、スイカをみんなで食べ、味も格別だったようです。

### 親子で「一緒に押しすしをつくろう!」





このコーナーでは、催し物やまちのできごと、地域の情報などを紹介します。

## 牡鹿地区



いま、牡鹿地区の食文化を伝える炭火焼ツチクジラ肉の無料試食に、長い列ができていました。木工の展示場にも、お客さんが大目玉を奪われていました。

### 牡鹿鯨まつり

8月3日(日)、おしかホエールランドイベント広場をメイン会場に、牡鹿鯨まつりが開催されました。

当日は、捕鯨基地として栄えた牡鹿地区の食文化を伝える炭火焼ツチクジラ肉の無料試食に、長い列ができて

## 北上地区



### にっこり夕市

### 大盛況!

8月13日(日)、北上総合支所駐車場において、毎年恒例の「にっこり夕市」が行われました。

夕市は、午後3時から5時までの2時間限りの販売で、新鮮な海の幸が奉仕価格で売られるとあって、故郷の海産物を買いたい求める帰省客や地元の人達などで、大いに賑わいました。

この日の目玉商品は、完全予約制の活ウニや焼いても刺身でもおいしい活ホタテで、引き渡しの時間前には長い行列ができました。

また、お楽しみ抽選会では地場産品のプレゼントもあり大賑わいでした。

されたステージでは、地元小学生による「鼓笛隊」や、中学生による「よさこいソーラン」など多彩なイベントが祭りに熱気を注ぎ、夜には演歌歌手の松原のぶえさんによる歌謡ショーで最高潮の盛り上がりとなりました。

また、海上では、美砲を使用しての近代捕鯨ショーと納涼花火大会が催されました。



## 石巻地区



### 遊びを通してマリサイクルを学ぼう

7月23日(日)、中央児童館と石巻小学校校庭で「リサイクルを学ぼう」をテーマに、石巻地区放課後児童クラブの子ども達が、ごみ減量のお話やペットボトルロケットを飛ばして、環境について学びました。

子ども達は、ペットボトルロケットが高く飛ぶごとに歓声をあげていました。

参加した子ども達は「ごみを少しでも減らしたい」「ペットボトルロケットが思ったより遠くまで飛んだのがとてもうれし」と話していました。

### 絵本の力に感謝しながら!!

とアドバイスしていました。



7月28日(月)、図書館において「読み聞かせボランティア養成講座(第4回目)」が行われ、講師に、おひさま文庫主宰の金子きくえさんを迎えました。

今回は、先日、受講生が蛇田保育所で行った読み聞かせ体験について発表しました。受講生は「絵本の力に感謝しながら読みました」「子ども達から『もう一回読んで』と言われ少し戸惑いました」と話していました。

金子さんは「子どもが主役、『もう一回読んで』と言われたら、なるべく読んであげましょ。その言葉こそ、読み聞かせの一番のご褒美なのです」